



先日、いしかわ市民活動ネットワーキング(イーねっと)が金沢市から委託を受けて主催している「金沢市ゆめまちづくり活動支援事業『公開プレゼンテーション(提案説明)』」に論評委員として参加させていただきました。

行政の行う「まちづくり支援」は、変革の時期に来ていると言えます。がんばって活動をしているところもたくさんありますが、毎年支援金が当たり前のようにもらえることに慣れ、活動がマンネリ化していたり、支出管理が不明瞭な団体も見受けられます。ま

ジーアンドエス社長 萩原 扶未子

ゆめまちづくり

た、まちづくりへの参画意欲があっても、どうやって行政の支援を受ければいいのかかわからず、予算や許可の関係上限られた活動しかできない団体も多くあります。行政も財政窮乏の昨今、大切なお金の使い道は年度ごとの見直し監査の基で行うべきであり、将来を踏まえた私たちのまちづく

十五組の応募がありました。選考方法は、各団体のプレゼンテーション後、提出資料とプレゼンテーションの内容から論評委員より質疑があり、会場に来ていた一般の方も評価を投票し、論評委員の評価を含め、金沢市が最終的に支援団体を決める形です。

かめです。そして聴衆も、支援・利用・参加したい活動を知ることができるだけでなく、評価に参加することで、まちづくりや財政の使い道に自分たちの意思を反映させることができます。

応募された方々のプレゼンテーションはどれも興味深いものが多く、活発な実

れた方などさまざまでした。立場も、学生から先生、主婦、パパグループ、リタイアされた高齢者の方と、幅広い層の応募がありました。

これからのまちづくりはNPO法の成立もあり、いい企画と仲間と実行力があれば、誰もが参画できるようになって行く時代と言えます。また今回の運営も金沢市、イーねっと、ボランティアの方々でされており、そういった意味で、皆でつくる「まちづくり」が着実に進んでいる事が実感できた事業でした。

りに必要で、しっかりしたプランと実行力と、画一された活動だけでなくゆめを持っていくところに拠出していく仕組み作りが必要でしょう。

昨年よりスタートしたこの「公開プレゼンテーション」は、総額150万円(一団体最大30万円)の支援金に対して、今回は

今回のような公開プレゼンテーションは大きな意味があります。応募者は、自分たちの実績や企画や予算計画を活字にし、さらにそれを言葉で訴える事は非常に勉強になります。何が自分たちに欠けていて、何が皆から求められていて、賛同されるのか、プレゼンテーションにより明確につ

績や金沢のまちを生かしたアイディアの独創性に新鮮な驚きがありました。発表方法も、PTTを駆使される方から、紙芝居で説明される方、見本の手作り防空頭巾を持ち込まれる方、手ぶり身ぶりで汗をしたらせながら話される方、包み込みよきな笑顔とやさしい話し方で思わず話に引き込ま

も企画が否決されたのではなく、予算枠の関係上のことであり、予算内容を変更するか支援を他に求めて、すばらしい企画を実践していただきたいものです。